

# 龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター

龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター（YSBRC）は、バン格拉デシユの経済学者、ムハマド・ユヌス氏が提唱するソーシャルビジネスの教育や研究、社会実装の拠点として、大学創立380年の2019年に設立された。

ユヌス氏は、貧困層の自立を支援する「グラミン銀行」創設者で、06年にノーベル平和賞を受賞した。同氏がトップを務めるユヌスセンター（バン格拉デシユ）が支援するセンターは現在、世界で約100カ所に広がる。YSBRCは74番目になる。

## UPDATE 知の現場

「龍谷大学は浄土真宗の精神を建学の精神とし、他人に尽くす『自利利他（じせいりた）』を行動の哲学に据えている。こうした教えとユヌス氏の哲学とが一致した」とYSBRCセンター長の白石克孝教授は設立の経緯を語る。

同大学ではYSBRC設立前から、産学連携を手掛ける龍谷エクステンションセンター（REC）が教員や学生の起業を支援。中でも社会課題解決型のソーシャルベンチャーが相次ぎ生まれていたという素地がある。

例えば、白石センター長が社長をつとめる非営利型会社

# 社会課題解決の起業促す



「PS洲本」が、大学と地域金融機関の資金をもとに、メガソーラーを設置・運営し、売電収入の一部を地域に還元する事業を展開する。また、駆除されたシカやイノシシの多くが廃棄されている状況を課題だと考えた学生3人が、シカを捕獲、養鹿、解体して、その肉をジビエとして都市部の飲食店に流通させる会社「REISOCIAL」を立ち上げた。

YSBRCは、こうした活動を組織として持続的に実施していく機関に位置付けた。ユヌス氏が提唱する「炭素排出と富の集中と失業の3つのゼロ」を実現するイニシアチブ「3 ZERO CLUB」に、5人1組で参加する学生もいる。

中でも気候変動問題に取り組んだ学生メンバーは、地球

温暖化を1.5℃未満に維持できるタイムリミットを示した「クライメイトロック」を作成し、学内に設置した。

また、社会課題の解決やESG（環境・社会・企業統治）経営を目指す事業者を認証する仕組み「ソーシャル企業認証（S認証）」を推進し、ソーシャルビジネスの社会実装を目指す。

S認証は、YSBRCと京都府や滋賀県にある3つの信用金庫の協定に基づき設置した認証機関が行い、24年2月現在で1021団体が認証を受けているという。

「事業に真摯に向き合ってきた中小企業は、必ずしもESGを意識してきたわけではない。認証をすることで社会性を再発見し、働いている人

たちもさらに自信が持てる」（白石センター長）

さらに新たなプロジェクトを手がける見通しだ。JR京都駅近くに移転した京都市立芸術大学の隣接市有地に建設予定の複合施設「共創HUB（ハブ）京都」内で、YSBRCは起業や社会実装の面で参画することになった。

他大学の学生や社会人などにも広く開放し、従来型の大規模な学芸祭や展示会を超えた学びや成長の機会の提供を計画する。

白石センター長は「テクノロジーを最大限に生かしつつ、ソーシャルな独自の価値を提供し、大学の新たな役割を創出していきたい」と意気込みを語った。

（編集委員 木村恭子）